

## 新幹線素通りに待った！箱根復活にあの手この手

今回は箱根に関する話題です。

神奈川県内でも訪日外国人客（インバウンド）に人気の箱根町ですが、今、試練の時を迎えています。

昨年5月に火山の噴火警戒レベルが2（火口周辺規制）に高められ、約4カ月間人気スポットである大涌谷を通るロープウェイが運休。噴火警戒レベルは下げられたものの、10月の台風19号では観測史上最大となる1000mmの雨を記録し、土砂崩れによって箱根登山鉄道が被害を受けました。一部区間では今でも運休が続いています。さらに新型コロナウイルスの感染拡大による影響も出始めています。

しかし箱根町はこの逆境に負けてはいません。

昨年12月には、箱根湯本で、訪日外国人客向けにお座敷遊びや日本舞踊鑑賞などを通じ、日本文化に親しんでもらうイベント「Meet Geisha」（ミート・ゲイシャ）を開催、再開を待つ箱根登山鉄道の強羅駅で、停車中の電車にイルミネーションを施すなど、復活のために地道な努力が続けられています。今年7月には老舗ホテルの富士屋ホテルがリニューアルオープン予定、秋頃には箱根登山鉄道も全線再開の見込みで、23年には「箱根ホテル小涌園」跡地に、温泉テーマパークである「ユネッサン」と一体化した新ホテルもオープンします。

都心から1時間で情緒豊かな温泉を堪能できる「箱根」ですが、地道な活動が実を結び元気が戻ってきたとしても、風評被害が長引くと訪日外国人客は新幹線で「素通り」してしまうでしょう。そうならないように、これからもさまざまな取り組みが必要となってきます。もちろん、地元新聞社として応援していくことは言うまでもありません。

神奈川新聞社 東京支社営業部長 黒瀧應司



写真左：昨年6～7月に運行された特別列車「夜のあじさい号」今年残念ながら休止。  
写真右：再開を待つ箱根登山鉄道電車。イルミネーションで盛り上げる。